

遠絡統合療法 基礎医学セミナー

8 痛みの中枢治療

痛みの中枢治療

Spinal cord 由来の痛み

症状の発生

(1) 局所性

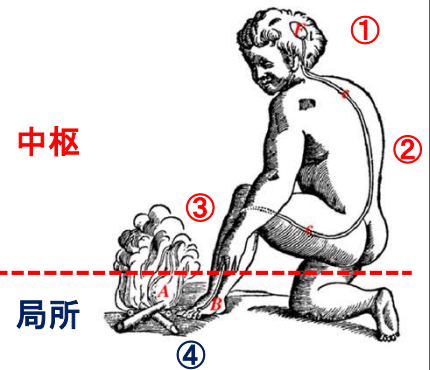
- ① 局所の炎症所見(腫脹、発赤、発熱、疼痛)
- ② 症状が移動しないこと
- ③ 症状が一側性であること

(2) 中枢性

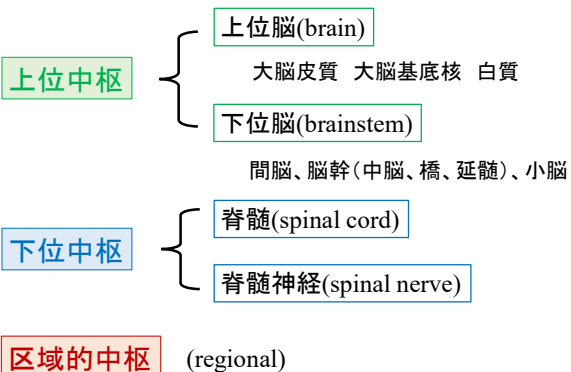
局所性以外のすべての痛み
痛みの部位とは別の場所に原因がある

治療方針を決める大切な病態の診方

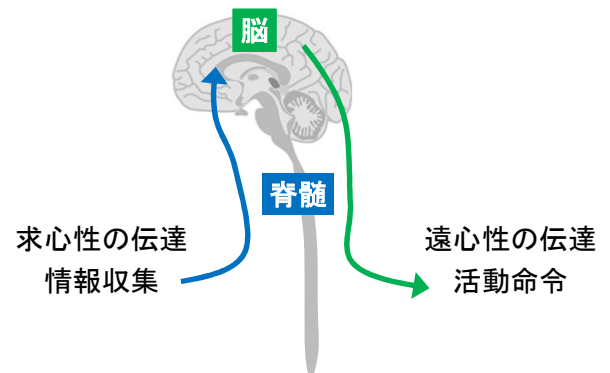
- ① 脳
- ② 脊髄
- ③ 脊髄神経
- ④ 末梢部



中枢の分類



身体の活動と神経系



痛みの発生から感知まで

- ① 侵害部位での神経の興奮
侵害受容器、炎症
- ② 脊髄神経の伝達
後角から脊髄へ伝達
- ③ 脊髄にて対側シフトして上行
ゲートコントロール、下行性神経抑制
興奮性神経伝達物質
抑制性神経伝達物質
- ④ 脳幹部→視床を経て
辺縁系・大脳



督脈(To)・任脈(Ni)

ライン

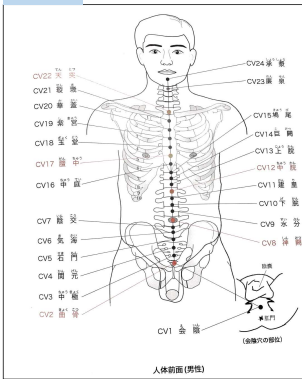
12ライン

奇脈 — 陽経 督脈(To) C-point 長強
陰経 任脈(Ni) C-point 鳩尾

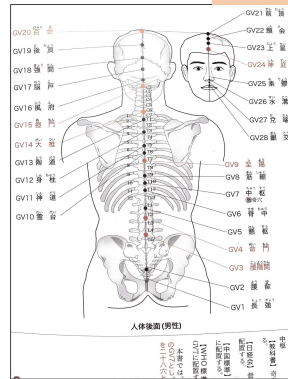
To、Niは正中線上を走行するライン

C-point を押すことで督脈と任脈がつながる

任脈



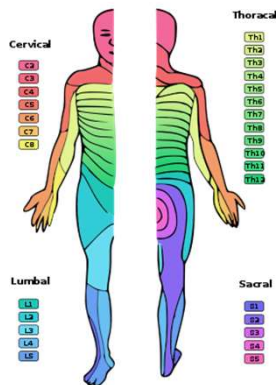
督脈



【参考】督脈

督脈の流れは、背中の真ん中、後正中線上を尾骨先端から上って頭を経て上の歯茎まで終わる。体内とも関係しており、起こるのは胞中（女性は子宮、男性は精巣を表すとされる）で、会陰から外に出て、そのまま尾骨の先端から腰、背中、後頭部から脳に入る。その後さらに後頭部の正中線上を上り、頭頂を経て、上の歯茎まで降りて終わる。
“大椎”のところでは手足の三陽経（陽の経脈すべて）が交わっている。そのため、督脈は陽気を調節する作用を持っているとされる。
また、体の器官としては腎、脳、脊髄、胞（前出の胞中と同意）とも関係がある。

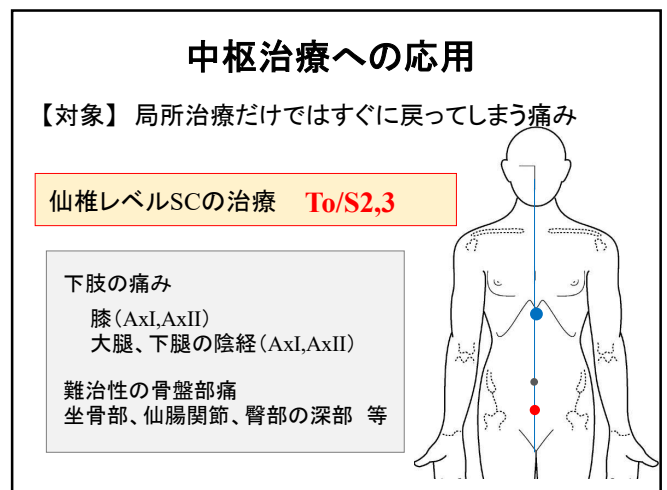
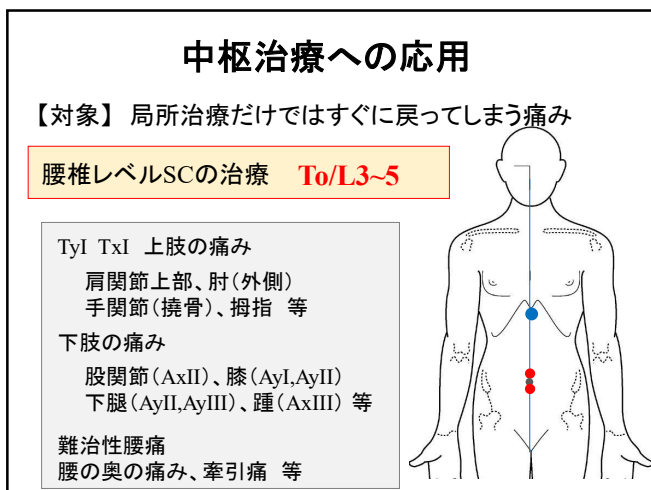
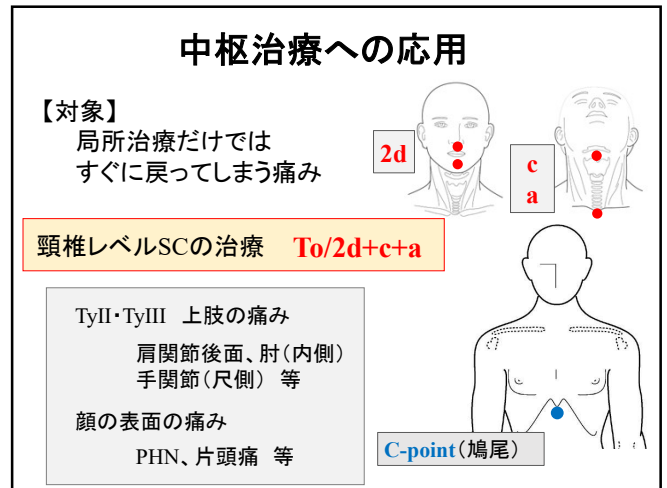
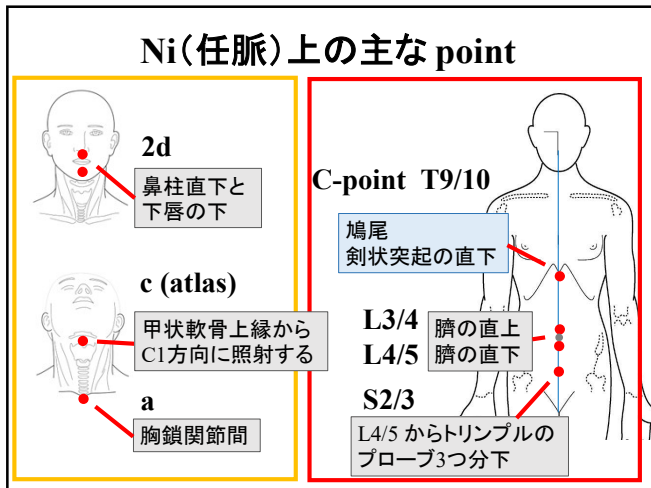
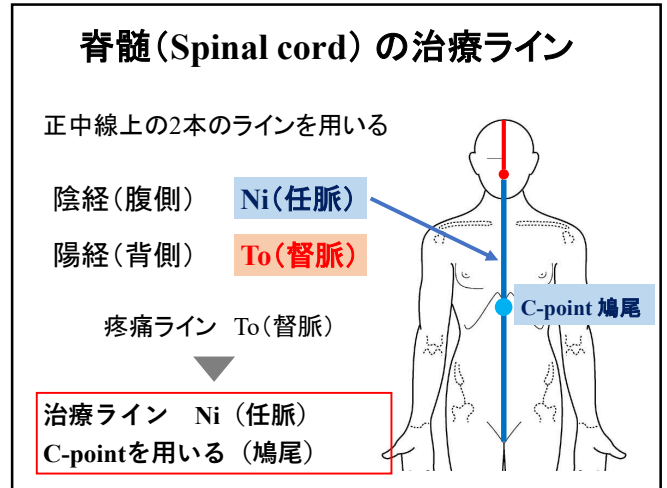
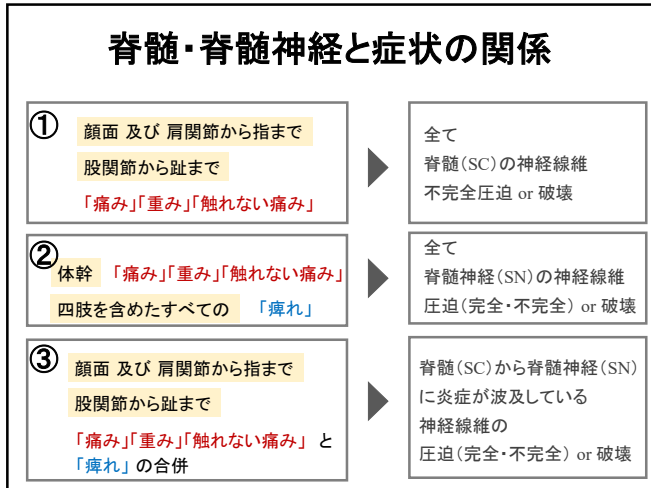
デルマトームの分布



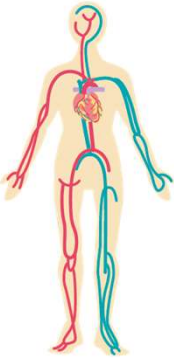
脊髄分節と関連ライン

関連ライン





任脈 F-point の注意点



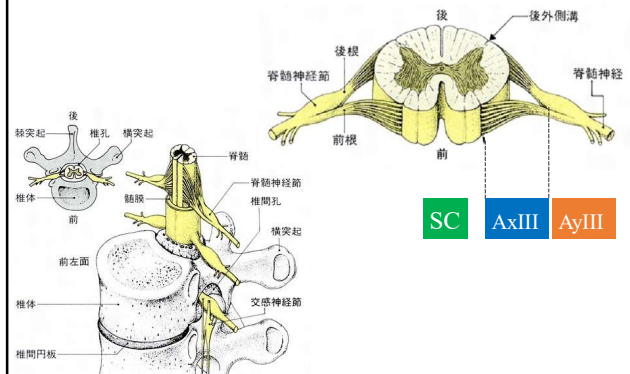
顔、頸部、胸部のポイントは骨に密着させる意識で軽い圧を加える

腹部のポイントに照射する際には適度な圧迫が必要

呼吸や咳などに合わせて圧の加減をすること

腹部の大動脈の拍動を強く感じる場合は、その手前で圧を調整すること

脊髄と神経根レベルのエリア配置



中枢と局所

① 脳

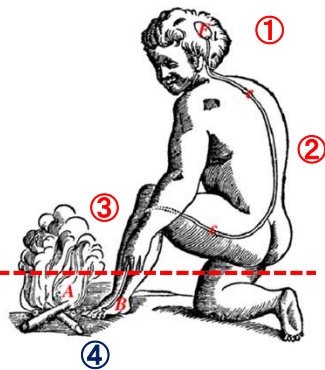
② 脊髄

③ 脊髄神経

④ 末梢部

中枢

局所



遠絡統合療法 基礎医学セミナー

おつかれさまでした。
遠絡統合療法は、臨床で実践することが重要です。

しっかり活用して、多くの痛みを取っていきましょう。